

皆さん、こんにちは。「事業継続計画（BCP）を起点にした経営の磨き上げ」を始めます。

この動画では、中小企業の災害対策と、それが経営の磨き上げにつながる理由についてお話しいたします。

中小企業にとって災害に遭うとはどういうことでしょうか？ 災害とは、地震、大雨による浸水、火災、未知のウイルスの蔓延など、不測の事態のことです。災害に遭った場合、対策を講じていないと、経営資源を失うことにつながります。経営資源とは、ヒト、モノ、情報のことです。

中小企業が災害に遭うと、強みを一瞬で失います。中小企業の戦略とは、強みを磨き、差別化することだと言われます。

強みは、多くの場合、ヒト、モノ、情報といった経営資源に裏付けられているものです。製造業で例えると、素晴らしい技術を持った職人がいれば、高い品質の製品を作ることができるということです。

災害に遭遇して、ヒト、モノ、情報といった経営資源を失ったら、強みを一瞬で失ってしまいます。すなわち、差別化している企業ほど、不測の事態に遭遇したら途端にピンチになるということです。

不測の事態に遭遇してもピンチにならないための対策は、自社の差別化を裏付けている「ヒト、モノ、情報」という経営資源を「複製する」ことです。又は、「複製できる体制を普段から作っておく」ことです。その手順をお伝えします。

ステップ1、自社の仕事の流れを描いてください。

ステップ2、仕事の流れの中で差別化できている業務を特定してください。

ステップ3、その業務を支えている経営資源が何かを考えてください。

ステップ4、その経営資源を複製する方法を考えてください。

ステップ5、その経営資源が失われたとしても複製できる体制を作ってください。

いかがでしょうか。このステップは災害対策だけでなく、経営を磨き上げることにつながるのではないのでしょうか。"

すなわち、災害対策を考えることは、会社を磨き上げ、強くすることに他ならないのです！

強みを複製する方法を考えてみましょう。

ヒトの場合です。特定の人が持っている技術やノウハウを他の人に伝承します。一人が複数の業務を行えるようにします。マニュアルを作成します。

モノの場合です。拠点を複数に増やします。いざという時に協力してくれる提携先を外部に求めます。店舗や工場が浸水しないように準備します。機械メーカーの担当者と密なコミュニケーションを取り、いざという時にサポートしてもらえる体制を作っておきます。

情報の場合です。データは複数の場所に保管します。例えば、自社のサーバーとクラウドのサーバーを併用するなどです。マニュアル化も有効です。ノウハウをデジタル化します。例えば、金型を 3D デジタル化するなどです。

サービス業や小売業、卸売業も同様に、経営資源の複製を考えます。

「ヒト、モノ、情報」といった経営資源を守り、複製する方法を考えるための枠組みがあります。それは、事業継続力強化計画です。

事業継続力強化計画は、国の認定制度があり、フォーマットが用意されています。

事業継続力強化計画よりも自社に合わせた形でしっかりした計画を作りたい方は、BCP があります。BCP も災害時に事業を早期に復旧させることが目標となっていて、会社を磨き上げ、強くすることにつながります。

これらの計画策定には、川崎市の専門家派遣制度を活用することができます。3回まで無料で活用できますから、ヒト、モノ、情報といった経営資源を整理して特定し、守り、より発展させる方法を専門家と一緒に考えてみませんか？

お問い合わせは経済労働局経営支援課まで。

災害対策を整えることで、会社の強みを磨き上げ、会社の経営の根幹を強いものにしましょう。